

823  
Ms. No.

戒江入楚

龍宴

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in several vertical columns and is mostly illegible due to fading and the quality of the scan.



花宴

十九歲

二月廿日余南殿榻宴

源氏宰相中將兼春鷹轉頭中將兼柳屋宴

其夜於弘徽殿細故通右大臣君宴 朧月尚侍是也

取替扇事

翌日後宴

源氏對面大臣殿之次語先日花宴日宴共宴

三月廿日二条右大臣弓結則有藤花宴

此日右大臣折藤花送源氏君哥之宴

右大臣以息男四位女將為使宴

其日源氏着布袴向二条升宴

始知扇之主宴

右大臣六君是也

源氏与右大臣六君隔几帳贈答之宴



則必宴

兩抄被載之

十九夕之去  
已上秘笈也

當官宰相中將正三位也

此卷は南殿の極楽あり南殿極

紫宸殿

出嘉慶

延祐十七年三月六日卯卯御記云晚以常寧殿著必命賓令吹

千石同就其座

理平作席子二剋召理平談詩沈吟文人綿又浦座階前玄上  
朝長以下倚唱哥之召笛前分苦行彈箏人而後原有時吹  
箏箏潛波指千象彈比也保忠朝長時令彈琴吹坐夜你信忠  
長卿衣倚長綰息那跽以女裝束給近伯發哥不酒者數人延  
長四年二月十七日卿記曰此日殿前梯必盛開作召文人聊  
閑坐嘉祐舊禮合召可假文人今日在使召常陸大弓貞真親  
王允大長

王允大校

有取煩不參申刻常陸太守親王參入同剋作老人立倚子東  
北庇自北才二間數步為座兩三牧於水階南簣子為為親王  
納云座梯樹下浦座西面為文人座刻西在浦門皆為原朝長參  
即著倚子令召親王為原朝長亦即系來倚座作令召文人即  
文章博士云流朝長民戶大車惜文朝長石中弁文江民戶女











未此年号ありよつてその面影あり

凡勅例一度の例とてしるは此所のありひくられしを  
お合てふありとてしるは已上

必

桐壺此所門と龍徳帝よりしるは此所のありひくられしを  
凡勅例一度の例とてしるは此所のありひくられしを  
お合てふありとてしるは已上

わいせくしけかやとてしるは

右末文此所のあり

東文此末文此所のあり

東宮此所のあり

東宮此所のあり

右末文此所のあり

東宮此所のあり

弘徽殿此所のあり

日いしとてしるは

東宮此所のあり

二月末此所のあり

貴とてしるは

秘日

秘云此所のあり



おぼろしき威をかりし

それ等のい 秘文字ありたりし

義必し先才一儒者奉作秘制 二紙之抄執者宮

義曰吾夜帳様必延在十七張解去日斜 延在四

花樹著雲深 天云四 此部也 次書韵字盛中提置庭中之文

卷上近湯次お先探所料韵字二字置苜蓋昇自所階就之

義云延在四年交石近女お実れ探韵字上次主に堪属文者

文人等若進文意以探一字見之出官姓若及取探韵字

今業探韵と云一名一字詩しくしくは韵字うろく端作去日同

賦去夜帳様必若分一字應製詩 探れ 某子 又けき之也

義曰儒者い詩一首し書之平生に懐紙と切韵之時にけ可成

内ハ部中取韵と様し書之已上義 多んわん 秘 韵字と一字はけく詩とけく必しけり

まといふ文字 イニナシ 并韵字と一字はけくこりえく仍る

そ仍けいえ部成儒者の言くは右詩と一字はけりて探

ゆ若く或ハ時よ今より句と用く庭上より儒者其文意けり

黄ハ  
以下三  
并異  
又四  
り

よあやとる中めおちとありくまこれわよ韵とやとるそ  
りる敷うあふよりん一字取目るきめは実く二あり  
と宛ちりしうくゆとあふりて仍る名二字と探用  
仍る十人あれいふ之韵二句と一字ハ韵はあふく十人ハ  
時ハ七と二句ともうてあふりてく

事お中おまといふ文字 源の字まて 真淳慈韵

必事れ詩はまて云韵字ハわひはけりるる源氏若る

あふのまてうくせくつる

義曰所門おまて時良よ通わらけりてま字とこり

えくまてく自然のまて

丁あさまといのへよこり 并 韵字とこりえくハ名を由

ともは友姓名何の字とけりて何のりともは言ふ事ハ源の

まノ字と探ありけり自然のまてこハけりハを退おあ

中ハけりてく

は若くは中お 秘 これとてのけりけり







表文より一紙をせしむ

源氏云いひ所の年の年と云ふ

義秘未許院年と云ふ(此中)は年の表意略の事なり

神人との事

私云河海に一返りしては同也

義云為事あるに及ぶ此年の例に及ぶ一は時を平式に及ぶ此年  
をうらまへしと時の具は事一て巡の年外に及ぶ例に

凡の如し

義曰く人の如く凡の如しなり

秘  
義云は如くい

秘  
義曰兼和時成康親王命河笛床於清涼

殿お院之者催感源

以中おいしと云ふ

義云此時の例に及ぶ事なり

柳公苑といふ事

義云秘に示すに及ぶ事なり

河原國云云

如吾福天共年柳原静々堅屋門僧持事

義云大庭の人の死る時ありしと云ふと例に及ぶ葬送の時也  
例に及ぶ柳公苑の人の葬送は例に及ぶ事なり

義の如くふ事ありと云ふ様拂とのりきと云ふに及ぶ人殺生

こを抄れしと云ふ事なり

秘  
義云久

秘  
義云久

いふ事なり

秘  
義云此の如しなり

いふ事なり

所を及ぶ事なり

義  
秘云

秘  
義云は殿と年又秘保と云ふ事なり

秘  
義云は殿と年

給所衣例

延和

延和  
河延和十七年

保志の如く賜所衣衣衣酒信者教人共装束給之

同延和四年義親王に賜所衣文人給示所之絹

義  
花臺は年示の如く例に及ぶ事なり

いふ事なり

上達アミと云ふ

義云源氏と年と云ふに及ぶ事なり

此の如く及ぶ事なり

て及ぶ事なり



張國又揭國

是詩も傳すべし

多々文人も階下より多く懐頌すなり

策云詩と作文と云はれ初云んゝあふ又云ゝ

象  
河成詩と  
を累して  
秘曰

每句透逸 方有 各藏 丁乃 々々 傳頌

中くすしゆを飾り一説に大才の人ハ数字をこれよりとてぬ公に

公後下邳遠く彼方ハ彼人ハ吾々ヲ邪字邪字證スル由アリ

薄情柔勒之令之哀之恨之令之席之令之西之令之是之

あたまうに又一ひ後仰のえよそやんといふる後仰よと

又遠遊上感也

私云、是ハ兼原ト云ヒテ、カモトノ兼原ト云フ。然ルニ兼原ハ、  
カモトノ兼原ト云フ。然ルニ兼原ハ、

よのうに、字事ハ字紙えりてや、  
病下を、  
えりてや、  
やらね

秘  
每句五字，或四

叙  
弟  
子  
地

桐葉子といふ事なり源氏

君と之より

秘中、文ハ、最、重シ、其、文、其、所、の、を、以、て、

ひる幾人其何とくわく之をそ給そとて 義曰

義中支の概略の如き事

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

義之者愛之  
仁之者愛之  
忠之者愛之  
信之者愛之  
義之者愛之  
仁之者愛之  
忠之者愛之  
信之者愛之

五ノ

人々

大いなるものゝまゝにゆゑに病にふれおれり

秘  
行  
年  
月  
日  
記

病可一收也切玉其如之風吹之凡物皆以作

[illegible]

どの人にもよく人はゆるぎ物なりひのちとくけぞう

て知ぬ一今條のすゝれと違ふらんを



うづりとも大なるあやうい原の人と云ふくのやひ  
うもまゆきとくうあひゆ

[illegible]

御所のうちありえりいゝかりよん

秘  
義云ふ所の泥の判うやと 源入 猶若くあゝさるれよくもなり  
るこれ水あつては降りぬてきこりぬぬれふいふつよくもなり  
きりのとてと 弟の泥に 并日

夜にゆけ

定鼎之自學此本國字有之

和云延長四年壬寅正月寅二刻入内局退知

あわれ

何分發

義退友

光らぬ戸を

王命ゆつろひる

策正曰

親あゝ

義秘中くとありありと

我々もこのやうな事をする人は少いから

六五

秘

桐壺のしらひみち漢語抄

ありもの

美河  
 細殿  
 忠教曰  
 説  
 叔説云  
 廊の字と誤り

旧記廟張弼文之墓

三のくら

弘平殿より南に所とありてありて是に

やうりオニはあはれに、格子もろくに 秘曰

秘曰

昇  
弘キ夜南少ととるる廊  
みろり面れ才云れ戸の  
あし

一 恒弘キ友の来やうり廊よりそしと細友よりわそ

よのちあはれにあらむのちをよめる

三の字は丁名よふじ  
一こふてんのかきよふ戸三を

才之よあるはよくあるは海に  
おまかせ

秘  
りそよの廊に  
廊の中央のにあり

廊の外三のにあり



世所は

秘弘徽殿し

おくれくろし戸も

萬葉

くろし戸はくろし戸

萬葉

くろし戸はくろし戸

萬葉

くろし戸はくろし戸

或はくろし戸はくろし戸

秘云世のくろし戸はくろし戸

世中れあやしら

秘

世中れ人のあやしら

世中れあやしら

のあやしら

あやしら

或は世のあやしら

或は世のあやしら

或は世のあやしら

いとしきあやしら

是より曉月夜のあやしら

あやしら

是よりあやしら

伊勢のあやしら

伊勢のあやしら

いとしきあやしら

是よりあやしら

伊勢のあやしら

伊勢のあやしら

此の奥のあやしら

あやしら

秘のあやしら

あやしら

秘のあやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら

あやしら



あゝまゝ

鰯のさぬき

あふ

勝月夜初雪

中へいふ人より

叢  
町の斗界

源の自稱は「巧も人よゆゑされど」の商店の計算は此也

五人のゆゑ

并  
おそれ  
と  
女  
い  
人  
あ  
る  
見  
の  
初

いふ

秘

秘  
こころの海よりこころの海へ

義同

かゝる

秘是より膨の心

多心何如

源の如

行多明也

其のうゝ夜の父なるをゆゑに

わんわん

河  
周  
章  
燮

如いまてふ海くふあふれろ

義少云子と源建

江戸より又の書  
 美々々と内々との比ひおねのすた  
 知平

松島家子

秘  
源の刻

いふべき事あり

解 白後何と々々かゝるべき

[illegible]

勝月夜

うき世はやくそくなく草花をとりてをり

いふことありては、  
 此の草は、  
 原草のくも、  
 石のくも、  
 三斗のくも

ゆるぎなき一歩とあるはたのほの多めなり

まゝとちゝる奇なり 秘曰

秘曰

義云云云云は若と尋ふ事なく此深うぬを云

此の心を  
忘るゝ事  
あるべし

今よりわたくしは若き此の世を為す

尋常ありては悔みたる也

羿秘笈大畧回一

一、わさうにんあときれとく

河原抄云、のそふねとていふは、さきふねとていふは、

わづらふといふは、**考**れを**庵**めりきよき**実**ある

いづれにふかき水に身をまかせ

ありてふれといふなり



[illegible]

（云ふ所なり）  
 玉にあらくれいもれきくありと云ふを此分ち申さう  
 第云玉の鏡を取りてるきりや大畧これ等一箇と

萬云秘ノ義ハキニシテ人ノ海ニト云リノ字不傳也

近原  
いほれそゝ病の原とてふこゝろ原は凡そそ吹

解  
いん  
ハズレ  
あな  
ト  
ふし  
ハズレ  
おたけと源とふしうぬ御

中より  
ハ、  
人々  
は、  
多  
く、  
さ  
う、  
あ  
る、  
と、  
い  
ふ、  
事、  
な  
り、  
と、  
い  
ふ、  
事、  
な  
り、

ふりとりひきれぬうけわききりぬりて  
しほの海

よふ風をけふよさうく病もとまらぬ物なれとよそへ

てありこゝろ小藤  
秘曰

秘  
河海とくくあり但に二條に  
上長六風とくく病

多岐川

養病の屋よりとりとめしき事なほいふれん

義曰 痛く云物に風が吹ける風と或るものなり

定例又いふ此よりいふ根より如き程と爲る

三の病の如くはそれより名なり終るなり也

秘  
源と大坂ととて同じようぬる風をけく病になつ



ね〜〜あ〜〜 義曰はれ〜〜は服く末の何〜せよたれ  
ぬ〜ぬ六のき〜〜は相〜〜今〜〜人〜〜

〜〜〜あ〜〜と〜すい 秘 せ〜〜〜〜〜

義云女の〜あ〜〜〜の病〜〜と〜〜

義云い〜〜〜あ〜〜あ〜〜の〜〜一〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜ひ〜〜海〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜ひ〜〜あ〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜 秘 弘中殿〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

又東坡約云 換扇唯逢春 愛暖〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜

〜〜〜〜〜と〜〜〜と〜〜と〜〜



中くりしれあつて 今夜の如く夢の如くありていふれも中く  
とせむれぬよりれあつて

二條太政大臣 いづれいづれを

弘徽殿大臣 いづれいづれを  
朱雀院

師文少方 師文少方  
源のいづれ

致仕大臣北方 四君く致仕大臣  
いづれいづれを

五君

勝月夜尚侍 是の六君く六君くを  
一人いづれ

大和まより 美い勝月夜

夢人りしめゆさうり いづれいづれを

さそあつて人より 秘  
其のいづれ

あつていづれより いづれいづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを

あつていづれより あつていづれを











夢のやまへきこ  
物語評に記しし夢のやまへきこなりと云ふこと  
後の夢を此新枕書おとしき席の宛し

夢のやまへきこ  
夢のやまへきこは源と云ふひきき

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ  
夢のやまへきこは源と云ふひきき

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ  
夢のやまへきこは源と云ふひきき

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ  
夢のやまへきこは源と云ふひきき

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ

夢のやまへきこ



[illegible]

文德清和

必多うやうぞ

印し物とやりく君とふし

かゝる如くしてゐるが如く

詩とやわくを勝るる作

秘  
目  
中  
紀  
下  
土  
迄  
八  
月  
美  
未  
奧  
亞  
景  
遠  
仍  
然

今、文景迄ノ二字と飛臨と尺との行臨、猶ふと云と云

此物能上心  
少深ありき新りき原初ありき

和  
ふ 勢 乃 の 色 し 紫 日

極高とて口変あり  
以中抱命とすなり

のせとて年なきのわらうとにあらん事を

大と之の如くある  
源の如くある

新  
斯ニのニ朝ノと出シに

久ねの井と手と水と物と

養曰新字ワタクミスルト  
経ス

ゆるるのやと物のとちをあらとて原をゆるとて



新し

卷之四

秘

五

五

一座の光榮ありては變あり

仕  
ウ

ありけりといふに  
 へるにむすむす  
 へるにむすむす

秘為

わづらん井戸をさうとあし

中乃たそ島へ或は又中乃とある

膨月夜の如く

策秘方

公交りし人せり可きふき月と所也

勝のそ

養秘源

さへくそくはくそく



ゆきーゆきーぬわーり

義経 弘平の父

屋一ひの元金に石長たのりれりよ

義経 弘平の父

ひら緒

端弁後高より緒

延和七年二月廿七日御記云端弁

岸而奉仕端分後高より御村場中幣に親王九方下竹又  
石取と云端分後高より御村場中幣に親王九方下竹又

踏分後高より御村場中幣に親王九方下竹又

時分の高より御村場中幣に親王九方下竹又

當日地元の端分後高より御村場中幣に親王九方下竹又

仙原云端分後高より御村場中幣に親王九方下竹又

私の高より御村場中幣に親王九方下竹又

延和二年三月廿九日

又天曆二年四月十二日お香合友のふれ高より御村場中幣に親王九方下竹又

ふさーりいさめり

橋くさーりいさめり

外のりりあーり

ふさーりいさめり

いさめりいさめり

やそふとーりいさめり

氏年一入するふさめり

ふさめりいさめり

いさめりいさめり

いさめりいさめり

いさめりいさめり



松云此水やうに流ゆへとてそふとそふと  
 けりゆふと

何  
 弘き女ノ所版の文をて歸の姉妹し弘き女  
 の所版の文をて歸の姉妹し弘き女

和の美のうへにあり已あはるる本とて

石方丈

萬事無成

りてそ人の同やうく御うまここのサーきうぬそと  
 よの御うまここのサーきうぬそと

秘

ありーかもと目あそび

四位お

美  
後大納言の事

衣中弁の光

永宿此處一處への文ありはゆふとてよきとてふは  
 おうりふはなり 永宿の文れををけつてふなり

幾多寂宿此必と随ふと自慢の爲によ涙せりはてあらず

りやくやと尺一の作と違ふところと未の約はとやうなけいふ家  
 者の世なられ玉の屋とていつ何うはさうよは原とすうん肉を  
 とぬりぬ屋一玉といふとこれ人の賣する物なれども我宿の  
 玉とてさうこれ玉の屋とては元來ありしとていふりぬ玉を  
 ともとせぬやとけりんと我やとのむと早下とて原とてと  
 ともとさうありとてこれとて原とてと時ハ世ある玉の稀なる  
 時とてこれと自慢の玉とては元來とてとやとこれありとて是は  
 ともとさうありとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 ともととけりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

私云あまふての久しうも云哉君ふくををつけろ初め  
我ハ苦過を以てこれより必死れりそは保ても得せと  
後れ尋常必といへる賣する物らやと一あるれそ何ぞ  
此も原はおられぬと世にこれかやのふくとありと  
さうしてこそおらせらんとの如くある之類一あるれ又  
とは普通なるんとも通ふからざるありやとあるれ今日  
源と信なりとてその元は應におれんとされるとわかれ







例あつて出せり畧々

布襦フとニ知チらレ也

策花西文云云。弱者在衣下。足踏衣。即使不帶事。

物より布襦とより下用之るに直衣布襦に依時依人更

人々の心

是を位胞と云ふ位よりいへる多岐なるを

策秘 予け 寄 止る

親王様れやういと云ふや又少衣様と云ふ大人の姿やうなる物に  
必らず着せよとけふより大君様と云ふ御らゐられりともとけふに

旅と川中著海をへてあまふたふへ

字は夫人の山崎とあり、  
河原崎の山崎とあり、  
又山崎

すゝと別々をすゝるといふは

私云、義方、元節とのせ、

いづれ

河  
野  
蔽

一語一嘆

中

秋  
子  
子  
子  
子

新編小治政の癡癡

[illegible]

具とさけるやとほのさゆとやあさるくくあとなあはる

世々中々事  
三師と云ふ

吾いあやめ

秘  
之  
醉

女一及女之害

我之此一表菜に一切交さず是なり

女之於所隨也  
 葵之於所隨也  
 立也  
 以二人  
 弘羊及所隨也

こゝのほろ

夜に寝ぬれとちりきゝ夜をわれも寝るはあはれ

神々々

學必物授は形肥方の人飲食は女房は袖にまゝ



實

金上りて最毒

祭

一  
張  
之  
被

大食の味

秘

一

2

源の初

2

養正先生

傳記

嘯

秘

星

三

金

源の心は弘孝友の心なり

のろふた

義曰ここ夜に客より召さる

...

底名の基

初月夜の本

五ノミヤ

著倭多未齊の川あり海















